



匝瑳市立平和小学校 学校だより

平和っ子

令和7年1月6日(月) No.9



学校教育目標『笑顔あふれる、夢いっぱいの平和っ子の育成』

－ 希望の登校・満足の下校 －

～子どもたちにとって安全・安心な学校、保護者や地域から信頼される学校～

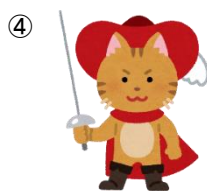
あけまして おめでとうございます。令和7年、新しい年を迎えました。

子どもたち一人一人が「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」それぞれにおいて力を伸ばしていけるよう学校経営にあたっていきたいと考えております。

本年も様々な面でのご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。



家庭でも読書の習慣を



冬休み期間中、子どもたちは図書室や学級の本棚から本を借りていました。ご家庭で読書している姿を見かけましたでしょうか。

子どもたちの読書離れが進んでいる中で、匝瑳市では読書活動の推進に取り組んでいます。本校でも、市図書館と連携しての配本サービスや読書ボランティアの方々のご協力で読み聞かせを行っています。更に、今年度は読んだ本を読書カードに記録し、低学年は10冊、高学年は5冊ごとに読書賞として「ミニ賞状」と図書委員会が作成してくれた「しおり」を授与しています。読書賞と共に図書室前の「読書の木」に葉っぱや木の実を張り、現在は立派な「読書の木」に成長しています。低学年を中心に、読書へ積極的に取り組んでおり、読書冊数が100冊を超えた児童が8名います。

しかし、子どもに読書習慣が身に付くようにするためには、家庭での取り組みが大きな役割を担っています。乳幼児の頃からの読み聞かせに始まり、年齢が上がっても家族で読書が楽しめるよう、発達段階に応じた途切れのない取り組みが必要になります。子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されます。学校以外でも、読書が生活の中に位置付けられ、子どもが読書に親しむきっかけをつくるとともに、読書をするものの効果やメリットを子どもに伝えることが大切です。

是非、この機会に子どもの頃に読んで面白かった本や、今現在読んでいる本の話など、家族で話し合ってみてはいかがでしょうか。

ミニ賞状に出題されているクイズです。
「上の絵は何という物語でしょう」

心温まる手紙をいただきました

昨年10月に、地域にお住まいの方から平和っ子の良さがとてもよくわかる素敵なお手紙をいただきました。ご紹介いたします。

平和小のみなさん（6・5年生のみなさん）



こんにちは。

わたしは毎朝、学校の前を車で通っている者です。

学校の前の横断歩道には、毎日、雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も、校長先生が立ち、みなさんが安全に登校できるように見守っていらっしゃいます。私もそのお姿に横断歩道付近は特に注意をはらって通るようにしています。みなさんは、横断歩道を渡り終えると止まっている車に一礼をして、“なんと礼儀正しいのだろう”といつも感心しています。

ある日のことです。その横断歩道で、とても心温まる光景を目にしました。そのことをみなさんにお伝えしたくてこの手紙を書かせていただきました。

その日はいつもより早い時間で、私の車の前でちょうど信号が赤に変わり、静かに車を止めました。横断歩道の端には黄色い帽子の1年生が一人立っていました。私は無事に渡り終えるまで車中から何気なく見ていました。

ところが、なかなか渡ろうとせず、何かとまどっている様子でした。校長先生はまだいらっしゃっていません。どうしたのかなと見てみると……そこに6年生らしき（5年生かもしれません）男の子が来ると、さっと1年生の肩に手をそえて横断歩道を進むようサポートしたのです。無事に渡り終えた1年生はほっとしたような顔をして校舎の方に向かって行きました。6年生らしき男の子も何もなかったように歩いて行きました。

なんとすてきな光景でしょう。何気ない一瞬の出来事でしたが、わたしは心が温かくなり、この男の子が正義の味方、平和小のヒーローに見えました。こんな優しくて頼もしい高学年がいる学校は素晴らしいと思いながら、車を走らせました。その日はいつもより朝からとてもさわやかな気持ちで過ごせたことを覚えています。

人は、同じ場面を目にしても、優しさや思いやり、気づかう心がなければ困っているかどうかには気付けません。気付いても、助けようとする勇気と行動力がなければ実行できません。

みなさんが、これからも友達や下級生に優しく思いやりをもって接し、楽しい学校生活を送っていけるよう心から願っています。



2024年10月10日